

# 守口市学力向上プラン

本市では、「確かな学力」※1とともに、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康や体力」が、「生きる力」であるとの理念のもと、知・徳・体のバランスのとれた人格の完成をめざし、教育をすすめています。

全国学力・学習状況調査、市アンケート調査等より見えてきたこと※2

## 学力向上に向けた守口の子どもの課題

- 課題Ⅰ 学ぶ意欲の向上
- 課題Ⅱ 言語能力の育成
- 課題Ⅲ 自学自習力の育成
- 課題Ⅳ 非認知能力※3の育成

## 達成目標 <何ができるようになるか>

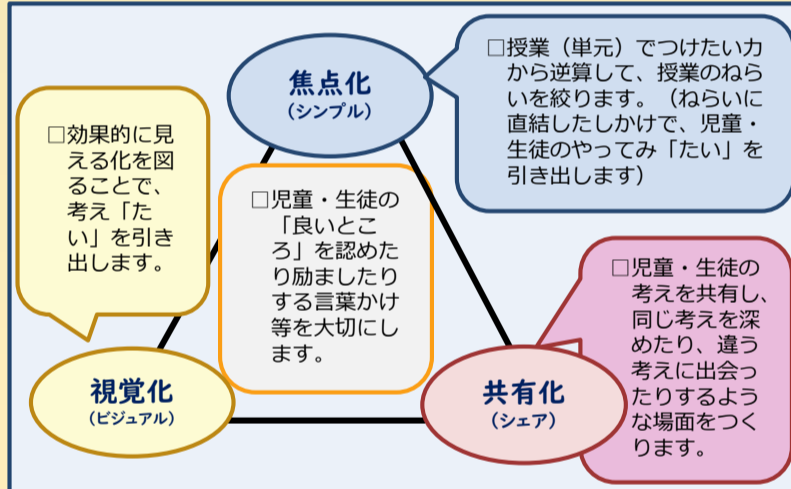
- ◆学習規律を身に付け主体的に学習する力を身に付ける。
- ◆課題に対して、意欲をもって取り組むことができる。
- ◆授業の中で思考し、他者とのつながりの中で、考えを深めることができる。
- ◆考えたこと・思ったことなどを、整理しながら読んだり、分かりやすく書いたり伝えたりすることができる。
- ◆家庭で自主的・計画的に学習する習慣を身に付ける。
- ◆読書に親しむ習慣を身に付ける。

## 学校の取組み

誰一人取り残さず、**すべての児童・生徒の確かな学びを保障**するために、**組織的な研究体制**のもと行う「**授業改善の推進**」・「**自学自習力の育成**」を2本柱として、**9年間を見通した**取組みを推進していきます！

## 授業改善の推進

『主体的・対話的で深い学び』の実現  
～すべての児童・生徒にとって、「わかる」「できる」授業づくり～



## 家庭学習課題 提示の工夫

□家庭と連携するなど、達成感や自己有用感を味わわせるような児童・生徒への働きかけを意識して取り組みます。

## 評価・授業への活用

## 自学自習力の育成

学びに向かう力の育成に向けた家庭学習の充実  
～知識・技能の定着、応用力・活用力の育成に向けた指導～

□家庭学習は、基礎基本の定着と探求的・発展的な内容とのバランスを図ります。

基礎的・基本的な内容  
(知識・技能の確実な定着)

探求的・発展的な内容  
(思考・判断・表現力の育成)

□内容や量、教科のバランス、時間のめやすの設定、自主学習や一人一台端末の活用方法、点検・評価の方法等、家庭学習について、学校全体や学年、教科間で共通理解を図ります。

- ①すべての授業で「授業のユニバーサルデザイン」の3つの視点を取り入れます
- ②学校図書館の計画的な利活用をすすめます
- ③日々の授業の点検・改善機能を充実させます

- ①授業との連続性を意識した系統的な家庭学習課題を設定します
- ②読書習慣の定着を図ります
- ③日々の家庭学習の点検機能を確立します
- ④放課後等における学習会を開催します

## 2本柱を促進させるため ICT機器を効果的に活用します

### 1. 授業改善の推進

- 一人一台タブレット端末等のICT機器を効果的に活用した指導
- 学習履歴等を蓄積し分析を踏まえた、授業へのフィードバック
- 協働支援ツールを活用した、多様な考え方を生み出す課題解決学習の推進
- デジタル教科書等のデジタル教材の活用等

### 2. 自学自習力の育成

- AIDリルやオンライン授業等を活用した学習
- 読み上げ機能等のデジタル教材を活用した、個別最適化された主体的な学習

### 3. 調査

- 一人一台タブレット端末を活用した、アンケート等によるきめ細やかな状況把握等



## 2本柱を促進させるため 児童・生徒個別の状況を把握し、分析します

「学習につまずきのある子ども」及び「非認知能力※3が低い子ども」等の把握・分析を組織的に行い、取組みの改善につなげます。



## ※1 「確かな学力」の3つの要素(「学校教育法」より)

- ◆基礎的な知識・技能
- ◆知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力
- ◆学習に取り組む意欲

## 育成をめざす『資質・能力』(「学習指導要領解説」より)

- ◆生きて働く「知識・技能」
- ◆未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ◆「学びに向かう力・人間性等」

## ※2 全国学力・学習状況調査・市アンケート調査等より見えてきたこと

- ◆授業改善や学習規律の育成に向けた取り組みは進んでいるが、引き続き必要である。
- ◆授業で学習した内容を普段の生活の中で活用しようとする子どもの割合が低い。
- ◆文章の構成や内容を捉え、自分の考えを明確にしながらかくむ力に課題がある。
- ◆与えられた条件に合わせて、理由や考えを整理して書く力に課題がある。
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力に課題がある。
- ◆話し合う活動で考えを深めたり広げたりすることができている子どもの割合が低い。
- ◆漢字の習得に課題がある。
- ◆知識・技能を活用して思考・判断・表現する力に課題がある。
- ◆家で自主的に学習する習慣や読書習慣に課題がある。
- ◆「自分にはよいところがある」、「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答する子どもの割合が低い。

## ※3 非認知能力

テストでは測ることができない力のことで、粘り強く課題に挑戦する力(頑張る力・自己抑制・目標への情熱)、気持ちをコントロールする力(自尊心・楽観性・自信)、人と協調して取り組む力(社交性・敬意・思いやり)などがある。

## ※4【教育委員会の支援】

- ◆学力向上推進教員会議の開催
- ◆教職員研修の開催
- ◆校内研究支援、初任期教員・講師に対する授業支援
- ◆効果的な取り組みの紹介
- ◆デジタル教科書の整備
- ◆ICT機器(タブレットPC等)の整備と支援
- ◆少人数指導・補充学習を行う市費教員の配置
- ◆土曜日学習・放課後等学習支援事業(小・中学校等での民間活力を活用した学習機会の提供)
- ◆学校司書の配置
- ◆スクール・サポート・スタッフの配置
- ◆部活動指導員の配置

## ※5【学校運営協議会との連携】 ～「社会に開かれた教育課程」の 実現に向けた取り組み～

- ◆教育課程の改善に向けた意見  
→出前授業の促進や地域人材の紹介
- ◆学校運営に関する評価  
→学校が作成する「学力向上推進プラン」等
- ◆保護者・地域住民等による学校支援活動の促進  
→学校支援ボランティアの募集と積極的な情報提供

## ※6【家庭・地域との協働】

- ◆規則正しい生活リズムの確立  
→あいさつ、早寝・早起き・朝ご飯、運動、身の回りの整理整頓等
- ◆各家庭での児童・生徒への励まし  
→学校生活についての言葉かけや読み聞かせ等の実施
- ◆学校支援活動による協働  
→地域のボランティアによる、授業支援・学習支援体制づくり
- ◆PTA・地域諸団体との連携強化  
→生活習慣育成に向けた取り組み
- ◆提携大学・企業等との連携  
→多様な人材を活用した教育活動の充実